

Q24：少人数指導のためのスペースを設ける場合、どのような点に留意すればよいですか？

A：普通教室などの近くに設け、他の学習集団と完全に切り離さずに、かつ、少人数でのまとまりをもって学習できるよう計画することが考えられます。

【解説】

長寿命化改修に併せて余裕教室等の空きスペースも活用しながら、教室を再配置し、音環境や空間のつくりを工夫することで、より利用しやすい空間に変化させることが可能となります。

■普通教室の近くにあり、利用しやすく柔軟に対応できる空間の整備

・一斉授業の形態から、習熟度に応じた学習、グループ学習などに切り替えるなど、授業の中でも活用しやすいよう、普通教室に隣接させたり、すぐに足を伸ばせる間近な場所に配置したりすることが考えられます。【事例1】

■音に配慮した計画とする

・静かな学習環境が確保できるよう、周囲との区画の方法や天井、床等の材質について音の伝わり方に配慮することが考えられます。（Q25の事例1も参照）

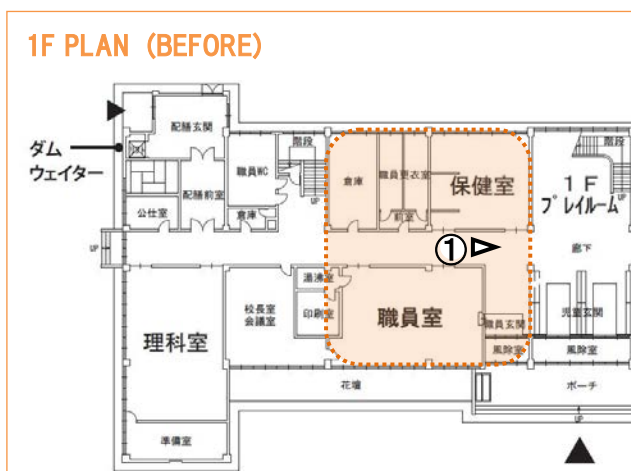
■親密さを感じられるつくりとする

・広さに見合った低めの天井高さにしたり、ベンチ、窓・開口部を設けたり、木材を利用しあたたかみのある空間にしたりすることで、普通教室の環境とは異なる雰囲気を持たせることも考えられます。

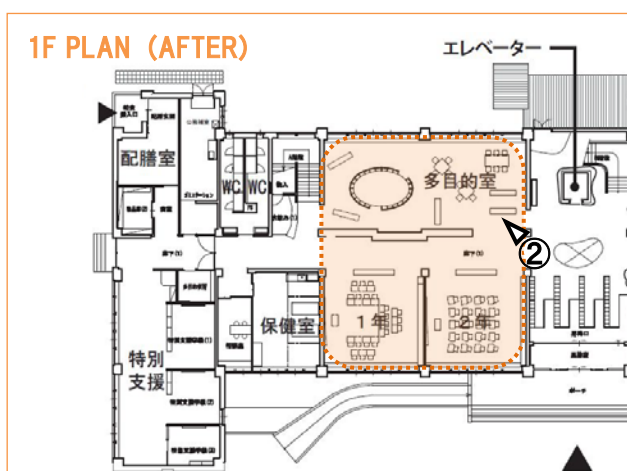
【参考資料】

新たな学校施設づくりのアイデア集，文部科学省，平成22年 等

【事例1】黒松内町立黒松内小学校（北海道）（普通教室の近くに少人数指導に使用できる多目的室を配置）



写真①：改修前の校舎。



写真②：低学年のエリアでは、普通教室前にワークスペース、多目的室を配置し、一斉授業から少ない移動で、すぐに少人数による授業等に切り替えができるよう配置されている。

Q25：発表や討論などの教育活動に活用できる多目的なスペースを設ける場合、どのような点に留意すればよいですか？

A：連続的に使用することができるよう教室を再配置し、構造耐力上不要な壁等を撤去することで、大きな空間を整備することなどが考えられます。また、スクリーンやプロジェクタ等が利用できる環境とすることも重要です。

【解説】

余裕教室等の空きスペースを再配置し、構造耐力上不要な壁等を撤去することで、大きな空間を作ることができます。その空間を可動間仕切り等で仕切ること、多様な教育内容や指導方法にも対応可能となります。

■教室を再配置し連続的に整備する

・教室を再配置（例えば、普通教室と多目的スペースなどを連続的あるいは一体的に使う学習も想定し、隣接させる等）し、構造耐力上不要な壁等を撤去することで、大きな空間を整備することが考えられます。その際、教職員の視野に活動全体がなるべく入るように、間仕切りの在り方（仕切らず開放的にする、可動間仕切りにより開閉可能とする、見通しの良い透明の間仕切りを設ける等）に配慮することが考えられます。

【事例2（写真①）】

・教室間の音の伝搬に配慮し、天井部分の吸音性を十分に確保したり、教室間の多目的スペースに吸音壁を設けたりするなどの対策を行うことが考えられます。【事例1（写真①）】

【事例1】尾張旭市立本地原小学校（愛知県）



写真①：
隣接する普通教室への音の伝搬に配慮し、天井部分に吸音材を整備した多目的室。

■校内どこでもICTを利用できる環境とする

・無線LANを用いることで、大規模な改修を行わなくてもICT環境を活用できるようになります。また、改修に併せてOAフロアにすることで、人の通行や車椅子等の移動の支障にならない配線計画とすることができます。【事例1（写真②）】

・普通教室でもコンピュータ、プロジェクタ等が使用できるよう、LAN配線や電源を設置することが考えられます。

■より多くの聴衆を対象とした多目的な空間を計画する

・体育館やランチスペース等に、ステージなどを設けることで、より多くの聴衆を対象とした発表や表現の場を計画することが考えられます。

【参考資料】

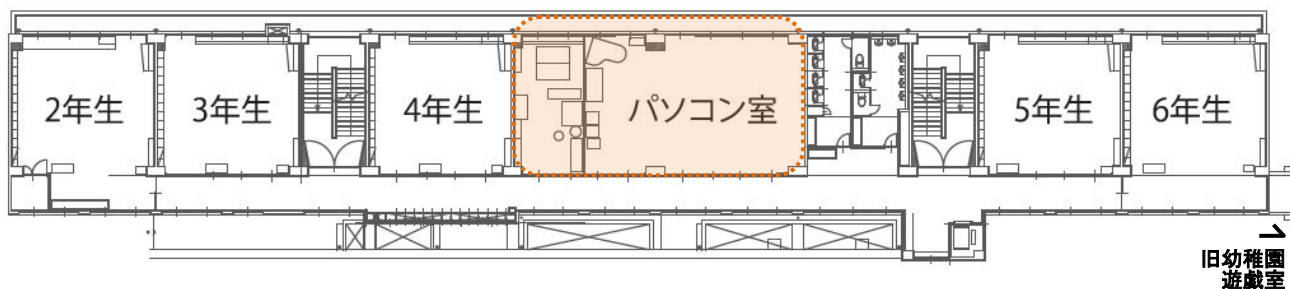
新たな学校施設づくりのアイデア集，文部科学省，平成22年 等



写真②：人の通行等の支障にならないよう、OAフロアを整備。

【事例2】坂井市立鳴鹿小学校（福井県）（構造耐力上不要な壁等を撤去し、大きな空間を整備）

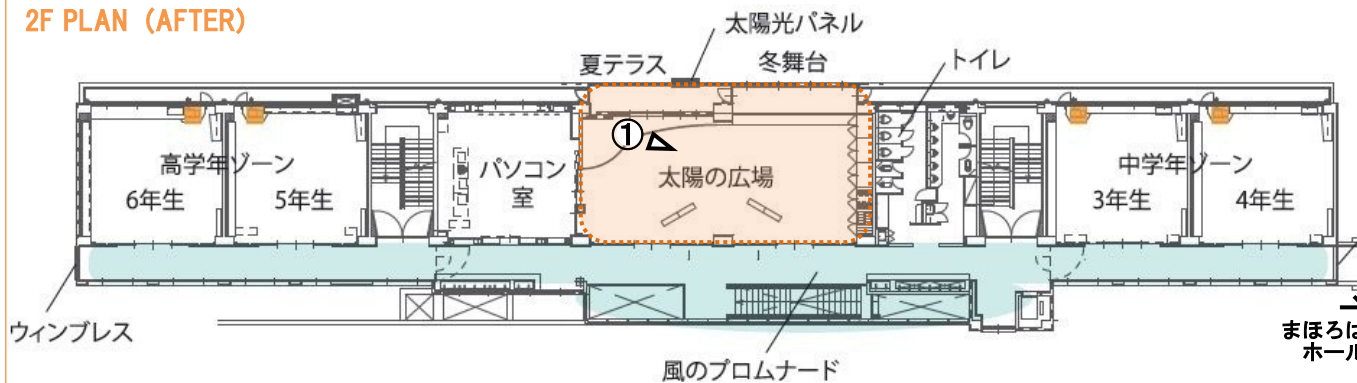
2F PLAN (BEFORE)



教室を再配置し、多目的に使用できる大きな空間を整備



2F PLAN (AFTER)



写真①：校舎中央に発表や討論などの教育活動に活用できる多目的スペースを整備。



Q26：特別教室の高度化を図る場合、どのような点に留意すればよいですか？

A：特別教室の機能と利用計画を見直すことにより、特別教室を教科別等でなく汎用性を備えた内容・構成としたり、設ける教室に十分な広さを確保し体験的な学習や創作活動に主体的に取り組めるよう計画としたりすることが考えられます。

【解説】

長寿命化改修にあわせて、特別教室の内容や性格を再構築し、余裕教室等の空きスペース等も活用しながら、関連性の強い教科の特別教室をまとまりをもたせて配置することで、連続的・一体的な利用など、より多目的に使用できる空間となります。例えば、調理室と被服室を一体的に整備すること【事例1】や、美術室と技術室のような創作活動のスペースをまとめて配置することなどが考えられます。

■汎用性を持たせる工夫をする

・作業台等の家具、床仕上げ、防音性、設備等、活動ごとに必要な性能や条件をもとに、特別教室の内容や性格を再構築し、連続性をもたせて配置することが考えられます。

・活動スペースを兼用できるように計画した場合、教科ごとの教材・教具、作品等の準備・保管スペースを十分に確保するよう留意する必要があります。【事例1（写真②③）】

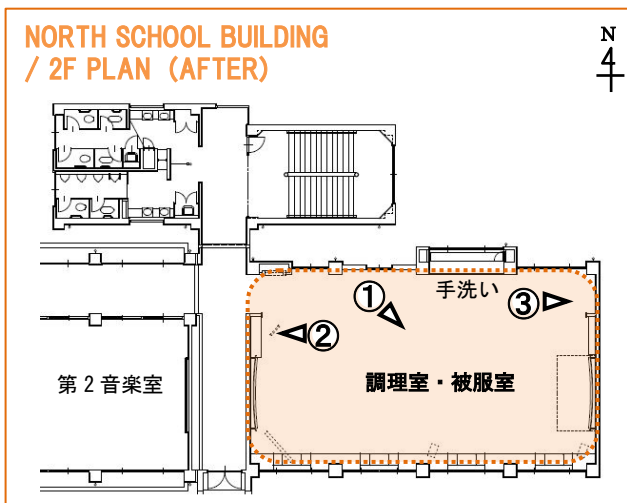
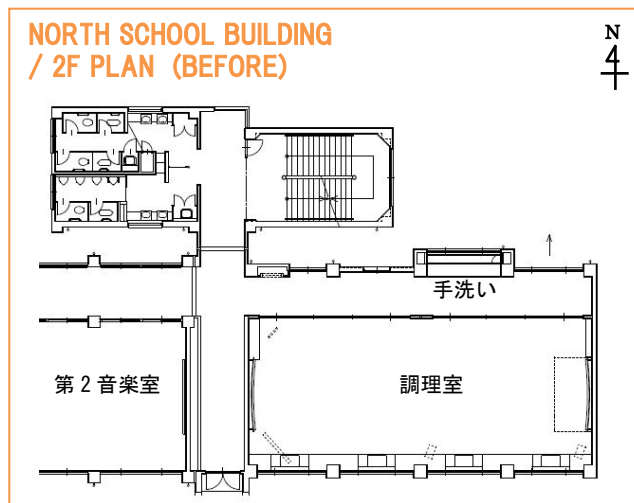
■使用頻度等を考慮し、より質の高い特別教室を整備する

・使用頻度の低い特別教室を減らすことで、設置する各特別教室に十分な広さを確保し、教材等の整った環境で多様な活動形態を安全に展開できるように計画することが考えられます。【事例1（写真①）】

【参考資料】

新たな学校施設づくりのアイデア集，文部科学省，平成22年 等

【事例1】尾張旭市立本地原小学校（愛知県）（調理室と被服室を一体的に整備）



写真②：被服関連の保管スペースは教室西側に整備。



写真③：調理関連の保管スペースは教室東側に整備。

写真①：改修前に廊下だったスペースを特別教室に組み込んで、十分な広さを確保し、調理室と被服室の機能を一体的に整備することで、体験的な学習や創作活動に主体的に取り組める空間づくりを行っている。（白点線は、改修前の壁を示す）